

校長先生の部屋だより

哲学ルームだより



この「哲学ルーム」は、生徒、先生の区別なく、共に学校スローガンである「人間を学ぶ」空間です。今月のテーマは、「円はどこにある？」です。

みなさん、こんにちは。新年度が始まりました。今年も「哲学ルーム」をオープンします。今月のテーマは「この円はどこにある？」です。

このように校長室の扉に掲示したのですが、

誰も来てくれません。

先生方に尋ねたところ、難しすぎるのでは？

ということでした。

ある先生は(その先生は今年度新しく来られた先生でしたが)さっと手を挙げて、

「認識の中にあります。」

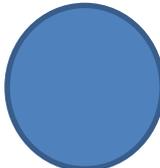
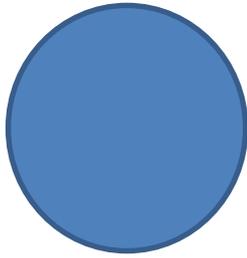
と答えてくれました。

こう来ると、だんだん楽しくなってきます。

普通は「円はどこにある？」と聞かれたら、「この紙の上でしょ？」となります。

でも校長先生が聞いているんだから、きっとそうじゃない、そう疑いたくなります。

そこで考えてみる。

円は  これでも、  これでも  これでも

円です。ですが「円そのもの」というと、どれでもありません。「円そのもの」には大きさというものがないからです。大きさのないものには目に見える形もあり得ません。ですが、それが円の本質です。

これって不思議ですよ。

またここに描かれた円は実は歪んでいるんですよ。分かりますか？つまり、正確に言うと、円ではないんです。よくよく考えて見ると、完全な円は描けません。微妙な誤差がどうしても出てしまうのです。つまり目に見えるものはすべて完全な円ではない、ということになります。完全な円を見たことないのに、どうして我々はそれを「円」と認識できるのでしょうか。どこかで見たからに他なりません、それは目で見るという仕方ではありません。これもとても不思議なことです。

我々は形のない、円の本質を目で見る仕方ではない仕方でどこかで知っている、ということになります。これは大変不思議なことです。

この不思議だと思うこと、これが「驚き」です。そうしてこの驚きこそ「哲学」のはじまりとされるものです。当たり前だと思っていたことが、実は当たり前でない。その当たり前でないことを当たり前のように行っているのが人間です。我々はその人間の身に生まれてきた。その人間が実はどこまでも不思議で、分からない、驚くべき存在なのです。

今月はこの「形のないもの」(目に見えないもの、音に聞こえないもの)にして「形の本質」であるものに少し着目してみようと思います。



pixta.jp - 14919892